

資料館見学の手引き

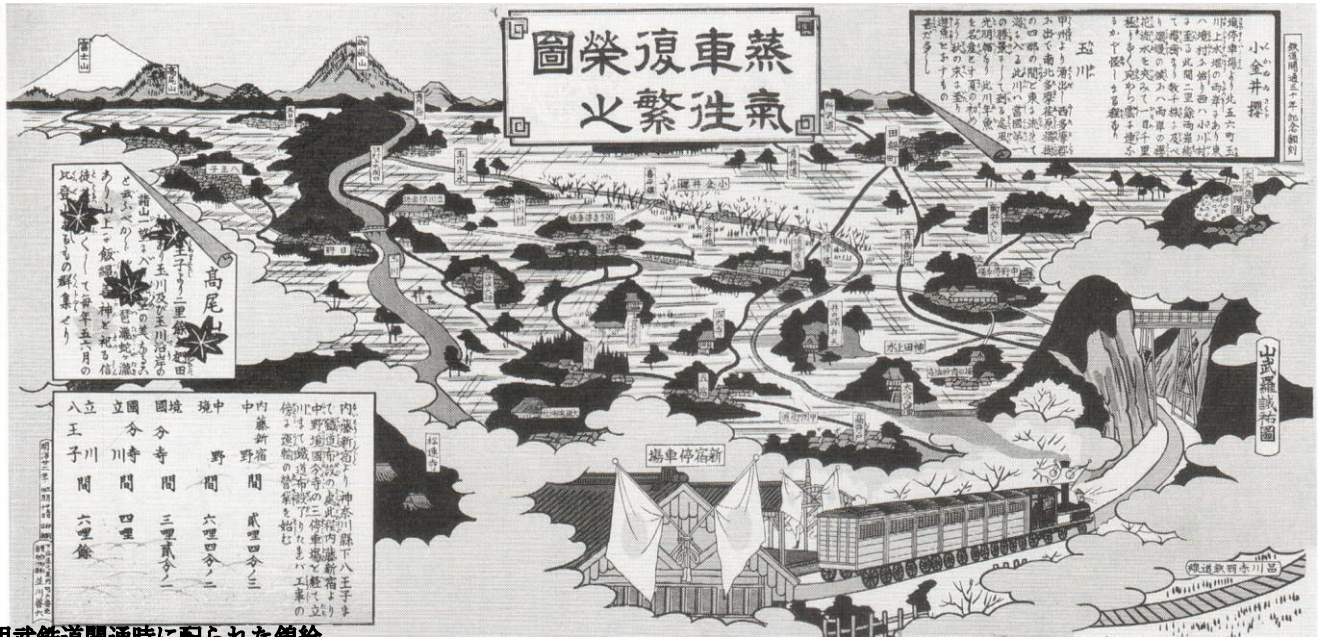
甲武鉄道の開通

立川市歴史民俗資料館

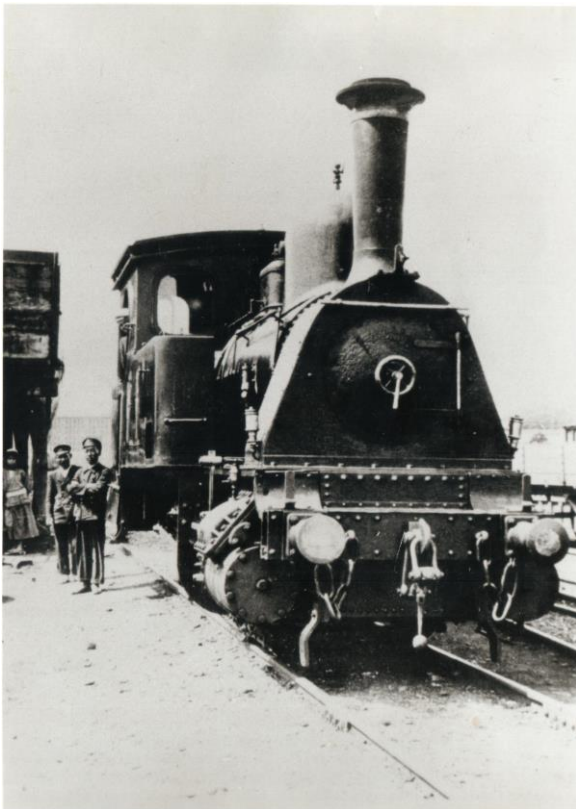
〒190-0013 立川市富士見町3-12-34
042-525-0860
2006年7月改訂

明治22年(1889)4月11日、新宿—立川間に甲武鉄道(今のJR中央線)が開通しました。立川駅も、同時に開業しています。この甲武鉄道は、はじめは甲州街道、次に青梅街道に沿って敷こうと計画されましたが、どちらも沿道の住民の強い反対にあってしまい実現できなかったそうです。

その時、鉄道の便利さと輸送力に注目していた立川村や砂川村の人々は積極的に誘致運動を行いました。その結果武蔵野台地をまっすぐに走る現在の線路が敷かれました。この甲武鉄道の開通により、立川は、多摩地区の交通の中心地となり、その後の大きな発展をむかえることになりました。



甲武鉄道開通時に配られた錦絵



甲武鉄道初期の蒸気機関車



甲武鉄道初期の蒸気機関車

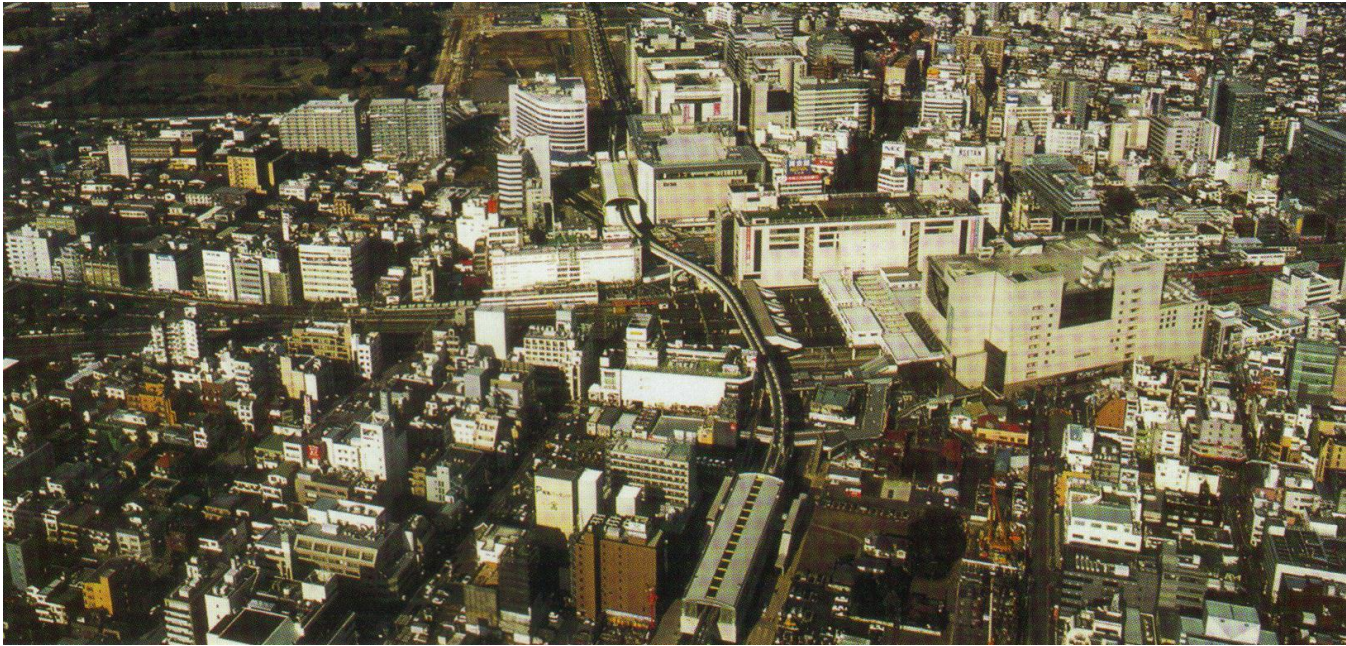


大正時代の立川駅北口駅舎

■鉄道の開通と立川の発展

甲武鉄道の開通は、立川のようにすを大きく変えました。それまで甲州街道が村のはずれを通る農村にすぎない立川を、多摩地区の中心都市に発展させたのです。それには各種の行政機関や、府立第二中学校（今の都立立川高校）などの教育機関をさかんに誘致するなど交通の便利さという地の利を、積極的にまち作りに生かしていった人々の努力があったことを忘れてはならないでしょう。

昭和初めの立川駅南口駅舎
立川駅の南口は北口ができてから約40年後の昭和5年に開設されました。



立川駅周辺の航空写真(平成13年)
立川駅の歴史

年 月	で き ご と
明 治 4 年(1871)12 月	柴崎村、砂川村は菰山県から神奈川県に移管される
明治 14 年(1881)3 月	柴崎村は立川村に村名を改称
明治 22 年(1889)4 月	甲武鉄道(現 JR 中央線)新宿－立川間開通 立川駅開業 (改札口は北口のみ)
明治 22 年(1889)8 月	甲武鉄道立川－八王子間開通
明治 26 年(1893)4 月	三多摩は神奈川県から東京府に移管される
明治 27 年(1894)11 月	青梅鉄道(現 JR 青梅線)立川－青梅間開通
明治 39 年(1906)10 月	甲武鉄道は国有化され中央線となる
大 正 元 年(1912)12 月	立川駅駅舎改築
大正 12 年(1923)12 月	立川村は町制を施行し、立川町となる
昭 和 4 年(1929)5 月	青梅鉄道が青梅電気鉄道に社名変更
昭 和 4 年(1929)12 月	南武鉄道(現 JR 南武線)立川－川崎間全通
昭 和 5 年(1930)3 月	立川駅南口開設
昭 和 5 年(1930)7 月	五日市鉄道(現 JR 五日市線)立川－五日市間全通
昭 和 7 年(1932)12 月	立川駅地下道開通
昭和 15 年(1940)10 月	五日市鉄道が南武鉄道に合併
昭和 15 年(1940)12 月	立川町は市制を施行し、立川市となる
昭和 19 年(1944)4 月	青梅電気鉄道・南武鉄道が国有化され、国鉄青梅線、南武線、五日市線となる
昭和 19 年(1944)10 月	五日市線立川－拝島間休止
昭和 29 年(1954)6 月	砂川村は町制を施行し、砂川町となる
昭和 38 年(1963)5 月	立川市と砂川町が合併し、新しい立川市が誕生
昭和 55 年(1980)4 月	立川駅の貨物扱いは全面廃止
昭和 57 年(1982)10 月	立川駅新駅舎完成 南北自由通路使用開始 立川駅ビル開業
昭和 62 年(1987)4 月	国鉄分割民営化、立川駅は JR 東日本旅客鉄道株式会社所属となる
平成 10 年(1998)11 月	多摩都市モノレール立川北－上北台間開通 立川北駅開設
平成 12 年(2000)1 月	多摩都市モノレール立川北－多摩センター間開通 立川南駅開設

